

出郷の作しゅつぎょうさく
(佐野竹之助さのたけのすけ)

決然けつぜん 国くにを 去さつて 天涯てんがいに 向むこう

生別せいべつ 又また 兼かぬ 死別しべつの 時とき

弟妹ていまいは 知しらず 阿兄あけいの 志こころざし

慇懃いんぎん 袖そでを 牽ひいて 帰期ききを 問とう

決然去國向天涯 生別又兼死別時
弟妹不知阿兄志 慇懃牽袖問歸期

解説 死を賭して大老暗殺の大事を執行せんとし、脱藩して郷里水戸を去る折、何事も知らない幼い弟妹に袖を引かれ、いつごろ帰るかを問われたときの断腸の思いを詠じたもの。

語釈 ※天涯Ⅱはるかな彼方。天の果て。 ※阿兄Ⅱ兄さん。「阿」は相手を親しんでいうときの助辞。阿母・阿弟などの類。 ※患懃Ⅱねんごろに。股勤とも書く。 ※帰期Ⅱ帰る日の時期。

通釈 井伊大老の暗殺を執行しようと、断固心を決して水戸の国を立ち去り江戸に向かう。今日、家族と別れるが、これが死に別れを兼ね、今生こんじょうの暇いとま乞こいとなる。幼い弟や妹は、それとも知らず、袖を引っ張り、帰国の時期を尋ねるので、腸もちぎれるばかりである。